

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 優秀賞

「ホールピザで考える、税金とわたしたちの暮らし」

足立区立 第十四中学校

三年 鈴木 柚衣

「税金って高いよね」

そんな会話を、テレビや大人たちの会話でよく聞く。でも、実際にどれぐらい取られているのか、私はあまりピンとこなかった。

ある日、父が「月収をピザで考えると面白いよ」と言って、私の前でホールピザの絵を描いてくれた。たとえば、ある家庭の月収が三十万円だとする。それを八枚にカットしたピザだとしたら、社会保険料、所得税、住民税などの「税金や保険」で三〜四枚分が持っていかれてしまうという。つまり、実際に自由に使えるお金は、四〜五枚分だけになるというのだ。「えっ、半分近くなくなるの!？」と驚いた私は、そのあと何に使われているかを調べてみた。

学校の教科書や給食費の一部、道路や公園の整備、警察や消防の活動、病院の設備や先生のお給料まで、実にいろんなところに税金が使われていることがわかった。つまり、ピザを三枚誰かに取られているわけではなく、「みんなで分け合って、社会を支えている」ということだった。

でも、もしこのピザが、家族の人数で分けられたらどうだろう。例えば、五人家族で手元に残ったピザが四枚しかなかったら、一人一枚も食べられない。一人暮らしなら、残った一〜二枚でどうにかやりくりをするしかない。家賃、食費、光熱費、通信費、そ

して子どもの教育費や医療費など、どんなに大きなピザでも、あつという間になくなってしまふ。

私はこの話を聞いて、「税金は大事」だけれど、「暮らしとどうバランスを取るか」がとても難しい問題なのだと思った。だからこそ、税金はただの「取られるもの」ではなく「どう使うか」が本当に大切なのだと思う。

税金があるからこそ、働いて得た収入があまりにも少なくなる、と、自分や家族の生活が苦しくなる。「支え合い」と「自分」のバランスはとても難しいけれど、私たち一人ひとりが関心を持ち、声をあげていくことが必要だと感じた。

税金があるからこそ、私たちは道路を安全に歩いて、学校にも安心して通える。だけどホールピザのうち一ピースしか残らないのに「もつと子どもを産みましょう」「家族を大切に」なんて言われたら、ちよつと笑えないと思う。せめて、残された一切れで生きていける仕組みを作ってほしい。そしていつか、自分の一切れが「ちゃんと役に立っている」と実感できる社会になってほしいと思う。